



滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

令和5年 第24週 (6/12~6/18) 【概要版】

令和5(2023)年6月22日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント

- ヘルパンギーナは、「例年より非常に多く」報告されており、警報基準を超えたため、県内全域に警報が発令されました。多くの保健所で増加傾向が見られ、警報基準を超える流行状況となっています。例年夏期に流行が見られていましたが、今年は早い時期に報告数が増加しています。
- RSウイルス感染症は、「例年より多く」報告されており、高い水準にあります。他にもA群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、インフルエンザなど主に飛沫感染する感染症が多く報告されています。
- いずれも2020年以降には見られていなかった感染症の流行状況となっています(詳細版の【参考】定点把握疾患の発生動向参照)。発熱や咳等の呼吸器症状がある場合は、マスク着用や人との接触を控えるなどの感染対策が必要です。

2. 報告数が多かった定点把握疾患(五類感染症)ⁱ

(1) 滋賀県

疾病名	滋賀県						保健所別(iv)						
	2週前	1週前	今週	警報 注意報 (ii)	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
ヘルパンギーナ	2.25	4.42	6.89	警	○	○	警	警	↑	警		警	警
感染性胃腸炎	5.17	4.42	3.81				↑	多			多		
RSウイルス感染症	2.81	2.58	2.53		○			多	↑	多			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.61	1.58	1.19		○			多		多		多	
インフルエンザ	0.85	0.48	0.68		○	○	多		多	↑	↑	多	

(2) 前週の全国、滋賀県および近隣府県の状況(下線:滋賀県よりも多い)

疾患	全国	滋賀県	大阪府	京都府	福井県	岐阜県	三重県
ヘルパンギーナ	3.00	4.42	<u>4.66</u>	2.90	2.60	1.28	<u>4.58</u>
感染性胃腸炎	<u>6.29</u>	4.42	<u>4.74</u>	<u>5.69</u>	<u>5.76</u>	<u>7.00</u>	<u>9.00</u>
RSウイルス感染症	<u>2.64</u>	2.58	<u>3.25</u>	2.14	<u>3.52</u>	<u>4.11</u>	<u>3.91</u>
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<u>1.67</u>	1.58	<u>2.72</u>	<u>2.42</u>	<u>1.88</u>	1.32	0.78
インフルエンザ	<u>1.36</u>	0.48	<u>0.70</u>	<u>0.62</u>	0.05	<u>0.62</u>	<u>3.07</u>



3. 全数把握疾患(滋賀県、今週診断例)

類型	疾病名	滋賀県					保健所別						
		2週前	1週前	今週	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
二類	結核	0	4	2			1				1		
三類	腸管出血性大腸菌感染症	1	0	2	○						1	1	
五類	急性脳炎	0	0	1	○								1
五類	破傷風	0	0	1	○	○		1					

i. 定点把握疾患:人口および医療機関の分布等を勘案して滋賀県が定めた患者定点(医療機関)で患者を診断した場合に、週単位で保健所へ報告される感染症を言い、報告された症例数を患者定点の数で除した「定点当たり報告数」により、発生状況を把握しています。

ii. 警:警報発令、注:注意報発令

iii. 今週の値が過去5年の同時期(全数把握疾患は同時期の累積報告数)の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」を標記(定点把握疾患の平均値は過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均を利用)

iv. 「警:警報開始基準を超過」、「注:注意報基準を超過」、「多:今週の滋賀県の値よりも多い」、「↑:前週比増加」(「警報」、「注意報」、「多」、「↑」の順に優先して標記)

滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

令和5年第24週(6/12~6/18)【詳細版】

令和5(2023)年6月22日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント

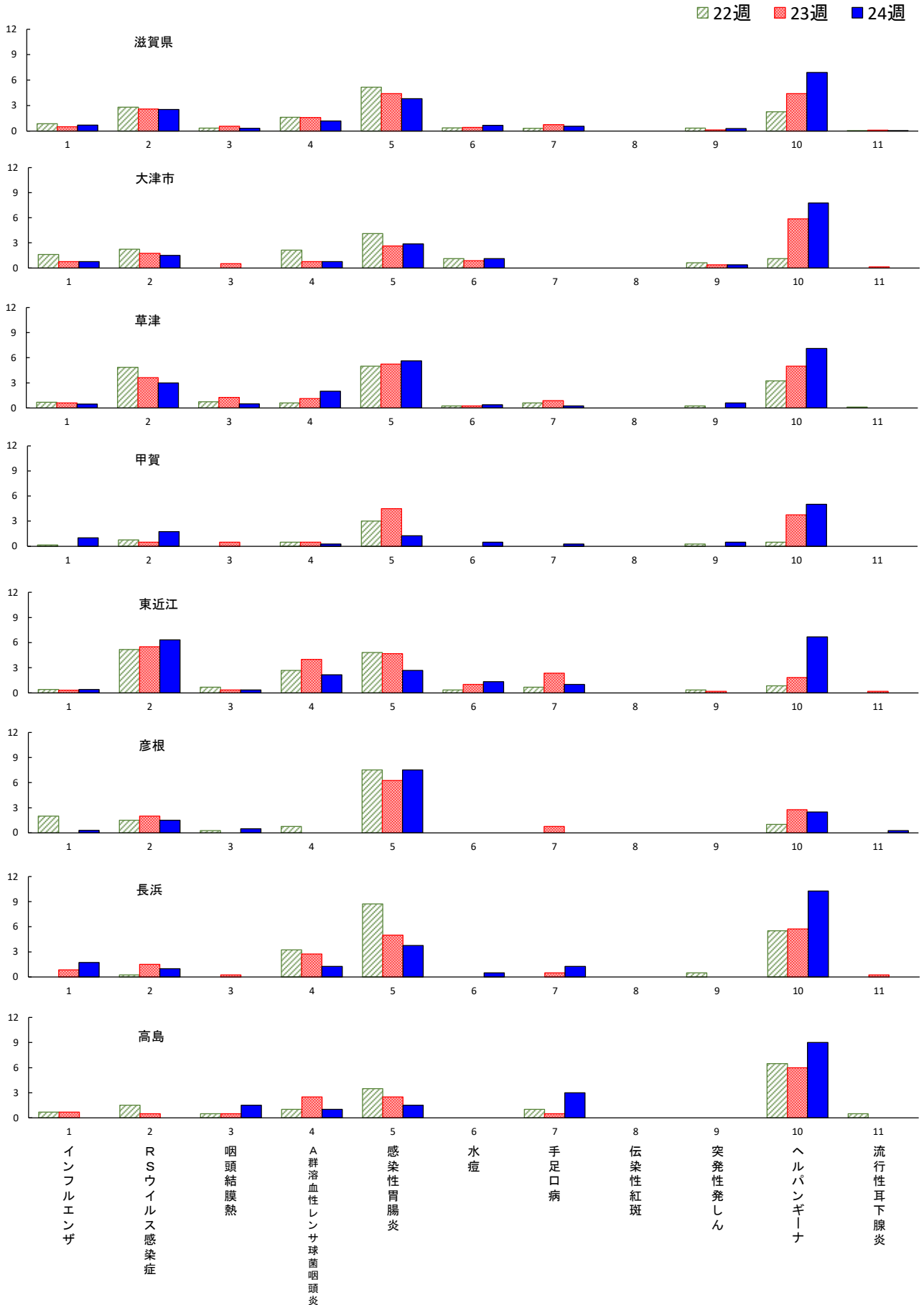
- (1) ヘルパンギーナは、「例年より非常に多く」報告されており、警報基準を超えたため、県内全域に警報が発令されました。多くの保健所で増加傾向が見られ、警報基準を超える流行状況となっています。例年夏期に流行が見られていましたが、今年は早い時期に報告数が増加しています。
- (2) RSウイルス感染症は、「例年より多く」報告されており、高い水準にあります。他にもA群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、インフルエンザなど主に飛沫感染する感染症が多く報告されています。
- (3) いずれも2020年以降には見られていなかった感染症の流行状況となっています(【参考】定点把握疾患の発生動向参照)。発熱や咳等の呼吸器症状がある場合は、マスク着用や人との接触を控えるなどの感染対策が必要です。

2. 定点把握疾患(五類感染症)の定点当たり報告数(全国は前週)の値^{i, ii, iii, iv}

定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県			例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	保健所別 (iv)						全国 (前週) (iv)	基準値				
		2週前	1週前	今週			警報 注意報 (ii)	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根		長浜	高島	警報 開始	警報 終息	注意報
インフルエンザ (定点数:60)	インフルエンザ	0.85	0.48	0.68		○	0.77	0.46	1.00	0.40	0.29	1.71	0	1.36	30	10	10	
	RSウイルス感染症	2.81	2.58	2.53		○	1.50	3.00	1.75	6.33	1.50	1.00	0	2.64	-	-	-	
	咽頭結膜熱	0.33	0.56	0.31			0	0.50	0	0.33	0.50	0	1.50	0.69	3	1	-	
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	1.61	1.58	1.19		○	0.75	2.00	0.25	2.17	0	1.25	1.00	1.67	8	4	-	
	感染性胃腸炎	5.17	4.42	3.81			2.88	5.63	1.25	2.67	7.50	3.75	1.50	6.29	20	12	-	
	小児科 (定点数:36)	水痘	0.36	0.42	0.67		○	1.13	0.38	0.50	1.33	0	0.50	0	0.13	2	1	1
		手足口病	0.31	0.75	0.56			0	0.25	0.25	1.00	0	1.25	3.00	0.66	5	2	-
		伝染性紅斑	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0.02	2	1	-
		突発性発しん	0.33	0.11	0.28			0.38	0.63	0.50	0	0	0	0	0.31	-	-	-
		ヘルパンギーナ	2.25	4.42	6.89	警	○	7.75	7.13	5.00	6.67	2.50	10.25	9.00	3.00	6	2	-
流行性耳下腺炎		0.06	0.08	0.03			0	0	0	0	0.25	0	0	0.09	6	2	3	
眼科 (定点数:8)		急性出血性結膜炎	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0.02	1	0.1	-
	流行性角結膜炎	0	0.50	0			0	0	0	0	0	0	0	0.34	8	4	-	
	細菌性髄膜炎	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0.02	-	-	-	
	無菌性髄膜炎	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0.03	-	-	-	
基幹 (定点数:7)	マイコプラズマ肺炎	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0.06	-	-	-	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0.01	-	-	-	
	インフルエンザ入院	0	0	0.14		○	1.00	0	0	0	0	0	0	0.13	-	-	-	

- i. 定点把握疾患: 人口および医療機関の分布等を勘案して滋賀県が定めた患者定点(医療機関)で患者を診断した場合に、週単位で保健所へ報告される感染症を言い、報告された症例数を患者定点の数で除した「定点当たり報告数」により、発生状況を把握しています。
- ii. 定点当たり報告数が「警報開始基準値」を超える全ての保健所の管内人口の合計が、県人口全体の30%を超えた場合に滋賀県全域に警報を発令(「警」)します。また、定点当たり報告数が「注意報基準値」を超えた場合に注意報(「注」)を発令します。
- iii. 今週の値が過去5年の同時期(全数把握疾患は同時期の累積報告数)の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」を標記(定点把握疾患の平均値は過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均を利用)
- iv. **赤字斜字**: 警報開始基準を超過、**紫字斜字**: 注意報基準を超過

3. 定点把握疾患（五類感染症）の保健所別推移（滋賀県、今週と過去2週）



4. 定点把握疾患（五類感染症）の年齢階級別報告数（滋賀県、今週）

インフルエンザ定点 (60医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
インフルエンザ	41	-	-	-	-	-	2	-	4	7	3	6	5	3	-	3	4	-	-	-	4
大津市保健所	10	-	-	-	-	-	1	-	-	4	1	-	1	1	-	-	2	-	-	-	-
草津保健所	6	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-
甲賀保健所	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-	3
東近江保健所	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-
彦根保健所	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
長浜保健所	12	-	-	-	-	-	1	-	3	1	1	2	1	-	-	1	1	-	-	-	1
高島保健所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

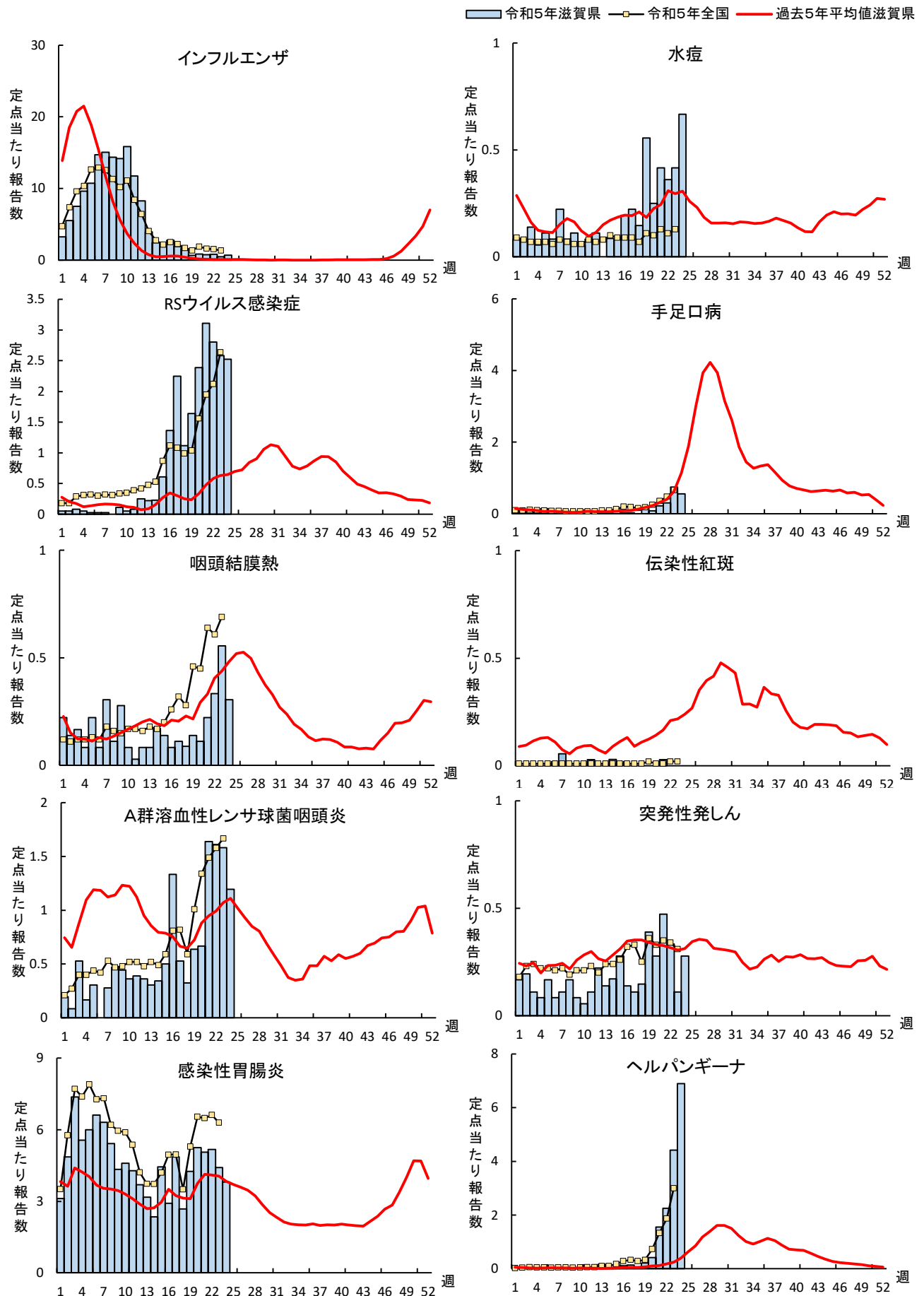
小児科定点 (36医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～
RSウイルス感染症	91	14	16	27	19	9	4	-	1	-	-	1	-	-	-
咽頭結膜熱 (プール熱)	11	-	2	4	2	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	43	-	-	-	3	5	5	7	7	6	1	2	5	-	2
感染性胃腸炎	137	2	4	17	12	19	13	18	13	7	7	3	15	1	6
水痘	24	-	-	2	-	1	-	1	2	6	5	2	3	2	-
手足口病	20	-	1	6	7	3	-	2	1	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑 (リンゴ病)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	10	-	3	4	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	248	1	15	57	43	50	34	19	17	5	2	3	2	-	-
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

眼科定点 (8医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

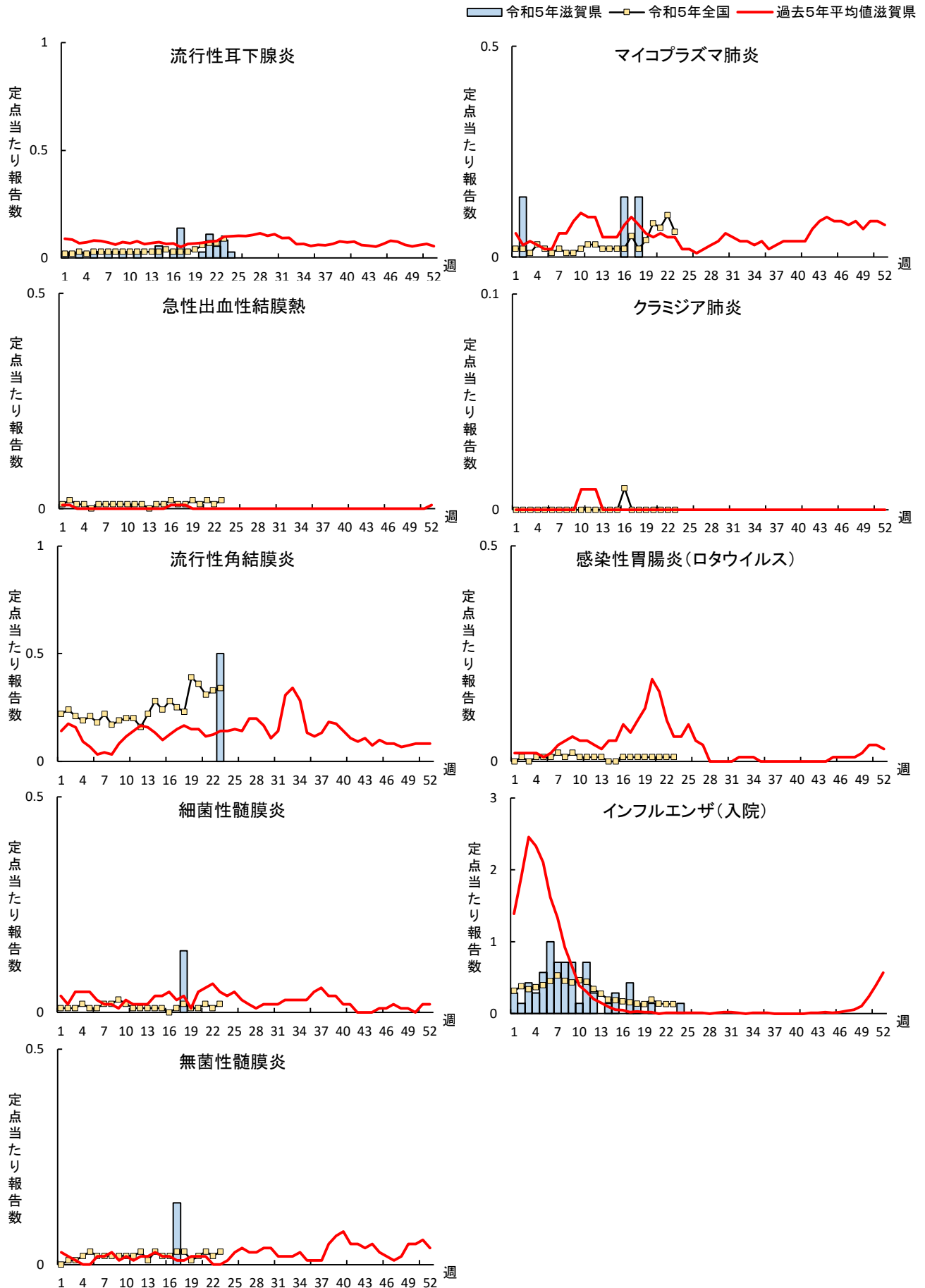
基幹定点 (7医療機関)	総数	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
インフルエンザ入院	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

「-」: 報告なし

5-1. 定点把握疾患（五類感染症）の発生動向（全国は前週まで掲載）



5-2. 定点把握疾患（五類感染症）の発生動向（全国は前週まで掲載）



6. 全数把握疾患 詳細情報（今週報告例）^v

類型	疾患	診断週	保健所	年齢	性別	病型等	推定感染地	病原体等
二類	結核	24	大津市	50歳代	女	肺結核	県内	-
	結核	24	彦根	80歳代	男	肺結核	-	-
三類	腸管出血性大腸菌感染症	24	彦根	30歳代	女	無症状病原体保有者	県内	O157 VT型不明
	腸管出血性大腸菌感染症	24	長浜	20歳代	女	-	県内	O26 VT1
五類	急性脳炎	24	長浜	10歳未満	男	-	県内	ヒトパレコウイルス
	梅毒	23	東近江	30歳代	男	早期顕症梅毒 I 期	県内	-
	破傷風	24	草津	10歳代	男	-	県内	-

v. 感染症発生動向調査事業において、一～四類および五類感染症の全数報告対象の感染症が、診断した医師から最寄りの保健所へ届出されています。

今週の注目すべき感染症

■ 麻疹

4月末に海外渡航歴のある茨城県内居住者が麻疹と診断されました。関西圏では、関連は不明なもの神戸市(5/6 発症)、尼崎市(5/20 発症)や大阪市(5/23 発症)と患者発生の報告がありました。感染経路がわからない患者もおられ、今後も国内で新たな麻疹患者が発生する可能性があります。

予防接種が最も有効な予防法です。定期接種の対象者だけでなく、麻疹の罹患歴がなく、2回の予防接種歴が無いまたは明らかでない場合は予防接種を検討してください。

(1) 麻疹について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/measles/index.html

(2) 報道発表資料 麻疹(はしか)患者の発生に伴う注意喚起について(大阪市)

<https://www.city.osaka.lg.jp/hodoshiryo/kenko/0000568207.html>

■ 梅毒

(1) 梅毒に関する Q&A(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/syphilis_qa.html

(2) 梅毒とは(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/syphilis/392-encyclopedia/465-syphilis-info.html>

■ 新型コロナウイルス感染症

(1) 新型コロナウイルス感染症の国内発生状況等について(厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html>

(2) 新型コロナウイルス感染症に関する滋賀県の状況について(滋賀県)

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kenkouiryuhukushi/yakuzi/309252.html>

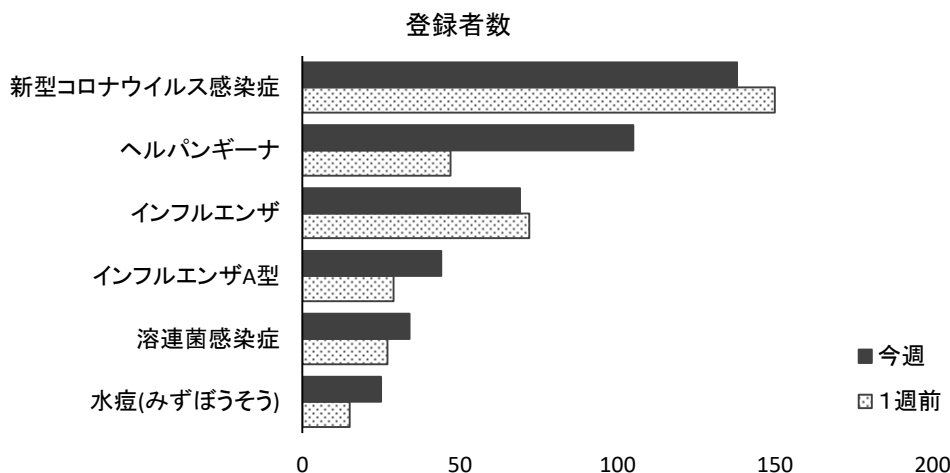
7. 全数把握疾患の累積患者報告数 保健所別（令和5年）^{vi, vii}

疾患	滋賀県			保健所別累積報告数							全国	昨年累積報告数	
	例年より多い	例年より非常に多い	累積報告数	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	(前週)	滋賀県	全国
二類 結核			59 4.19	21 6.08	11 3.14	5 3.54	6 2.67	6 3.90	4 2.69	6 13.28	5840 4.68	158 11.20	14784 11.78
三類 腸管出血性大腸菌感染症	○		9 0.64	1 0.29	4 1.14	0 0.00	1 0.44	1 0.65	2 1.35	0 0.00	738 0.36	46 3.26	3376 2.69
四類 E型肝炎	○		1 0.07	0 0.00	1 0.29	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	268 0.36	0 0.00	434 0.35
A型肝炎	○		1 0.07	1 0.29	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	26 0.36	0 0.00	69 0.05
つつが虫病	○	○	1 0.07	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.67	0 0.00	94 0.08	1 0.07	493 0.39
レジオネラ症			8 0.57	4 1.16	1 0.29	0 0.00	1 0.44	2 1.30	0 0.00	0 0.00	679 0.54	33 2.34	2144 1.71
五類 アメーバ赤痢			2 0.14	2 0.58	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	217 0.17	9 0.64	536 0.43
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	○		7 0.50	4 1.16	1 0.29	0 0.00	2 0.89	0 0.00	0 0.00	0 0.00	765 0.61	20 1.42	2010 1.60
急性脳炎	○		3 0.21	2 0.58	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.67	0 0.00	218 0.17	1 0.07	398 0.32
劇症型溶血性レンサ球菌感染症			5 0.35	1 0.29	1 0.29	0 0.00	1 0.44	0 0.00	2 1.35	0 0.00	363 0.29	15 1.06	744 0.59
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)			1 0.07	1 0.29	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	418 0.33	5 0.35	892 0.71
侵襲性インフルエンザ菌感染症	○		5 0.35	2 0.58	1 0.29	0 0.00	1 0.44	0 0.00	1 0.67	0 0.00	192 0.15	3 0.21	210 0.17
侵襲性肺炎球菌感染症			10 0.71	5 1.45	2 0.57	0 0.00	0 0.00	1 0.65	2 1.35	0 0.00	859 0.69	19 1.35	1345 1.07
水痘(入院例)	○		4 0.28	0 0.00	1 0.29	0 0.00	2 0.89	0 0.00	1 0.67	0 0.00	171 0.14	6 0.43	328 0.26
梅毒	○	○	37 2.63	9 2.60	11 3.14	6 4.24	5 2.22	1 0.65	5 3.37	0 0.00	6426 5.15	69 4.89	13226 10.54
播種性クリプトコックス症	○	○	2 0.14	2 0.58	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	84 0.07	2 0.14	158 0.13
破傷風	○	○	1 0.07	0 0.00	1 0.29	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	25 0.02	0 0.00	96 0.08
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	○	1 0.07	1 0.29	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	64 0.05	0 0.00	132 0.11
薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	○	1 0.07	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.67	0 0.00	7 0.01	0 0.00	13 0.01

- vi. 今年第1週以降に診断された感染症の累積報告数を全国、滋賀県および保健所別に示しています。上段に「今年累積報告数」、下段に「人口10万人当たりの累積報告数」を示しています。
- vii. 今年と過去5年の同時期の累積報告数の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、または「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」で標記

【参考】今週の学校欠席者情報収集システム（保育園サーベイランス含む）概況（滋賀県）

滋賀県では、園および学校等により、感染症による欠席者等の情報を学校等欠席者・感染症情報収集システム(https://scl11.953862.net/schoolkoukai/view_all.php)へ毎日入力いただいています。入力いただいたデータを、本感染症週報と同期間について、集計して掲載しています。



図：学校欠席者情報収集システム（保育園サーベイランス含む）において登録数の多い疾患

【全国情報】国立感染症研究所 感染症疫学センターHPに掲載されています。

感染症発生動向調査 週報 (IDWR)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>

病原微生物検出情報 (IASR)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>

インフルエンザ様疾患発生報告(学校欠席者数)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-flulike.html>

【届出対象疾患】厚生労働省 HPに掲載されています。

感染症法に基づく医師の届出のお願い

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/kekaku-kansenshou11/01.html

滋賀県感染症発生動向調査週報は、感染症法に基づいて県内の医師、定点医療機関および県内各保健所より報告されたデータを用いて、滋賀県衛生科学センター健康科学情報係において作成しています。

本情報は滋賀県感染症情報センターホームページに掲載しております。

滋賀県感染症情報センターHP:

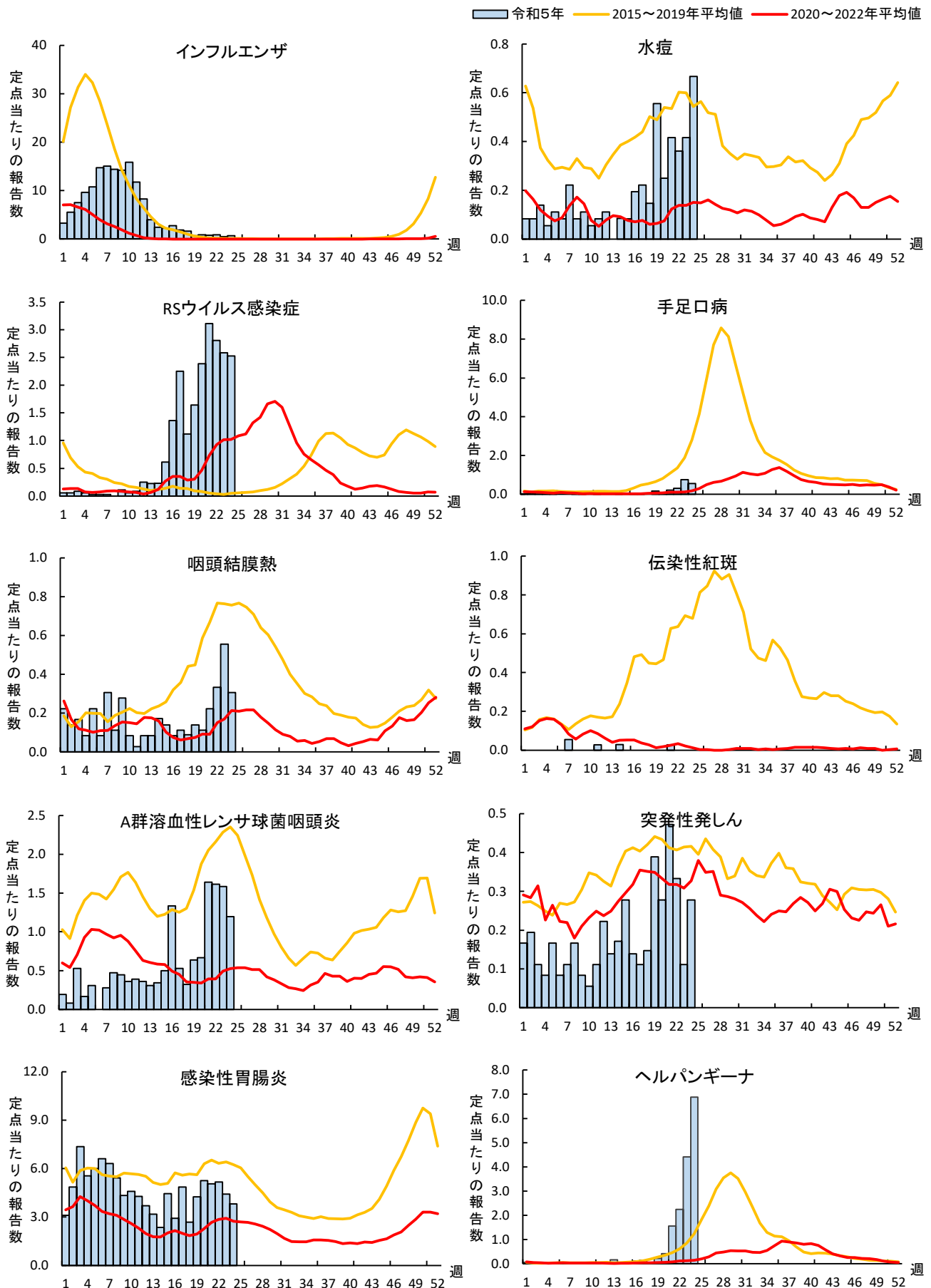
<https://www.pref.shiga.lg.jp/eiseikagaku/kansensyou/>



イラストは滋賀県健康づくりキャラクター「しがのハグ&クミ」

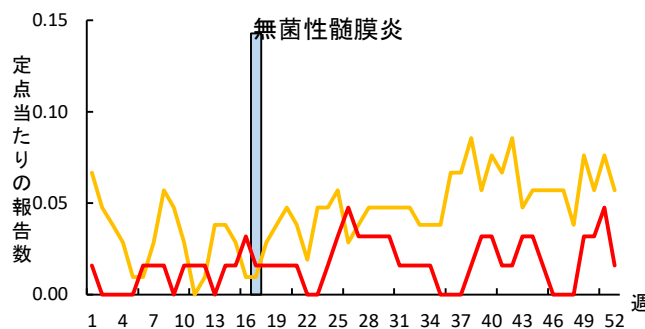
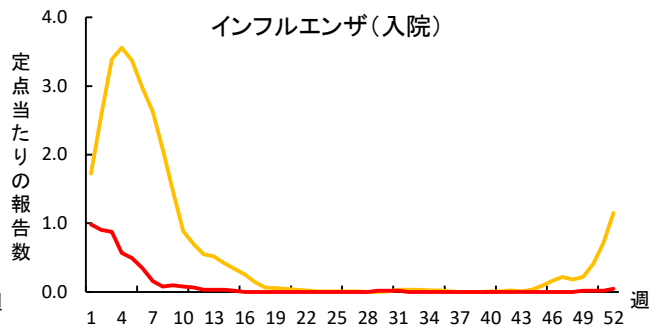
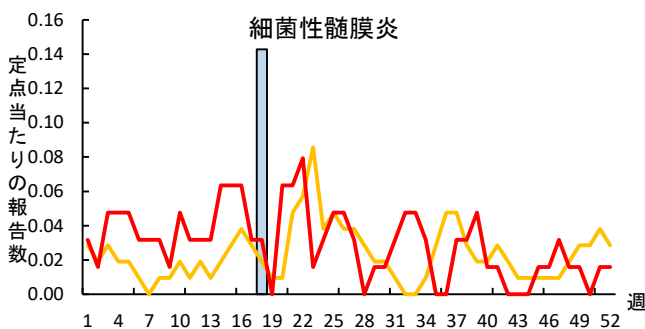
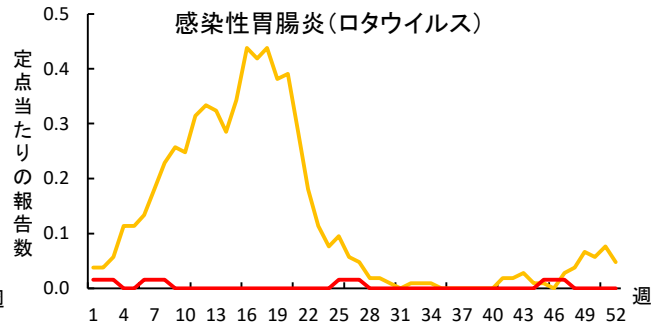
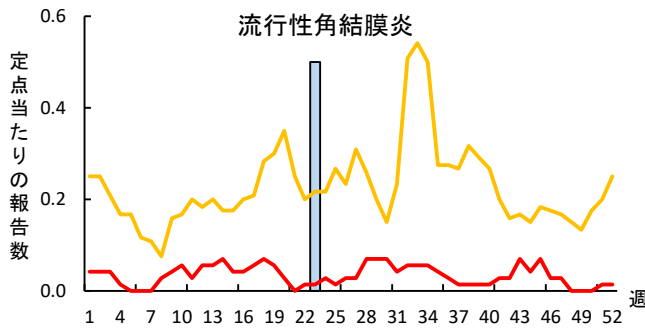
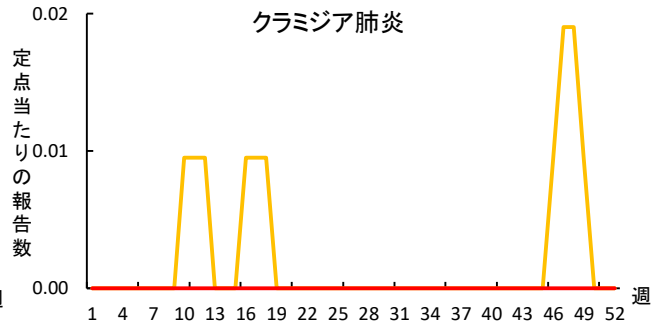
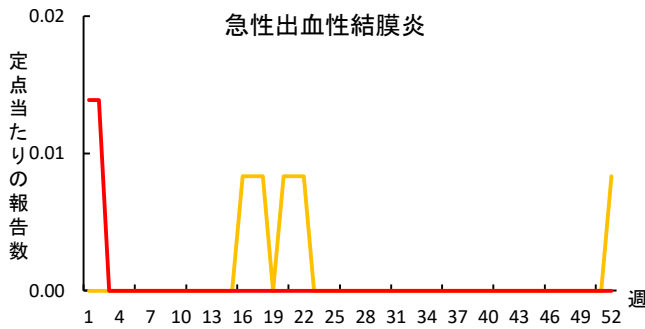
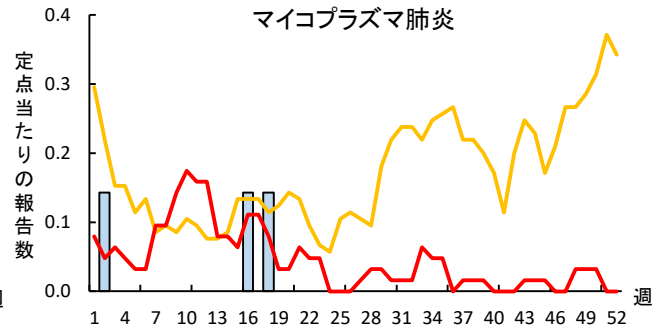
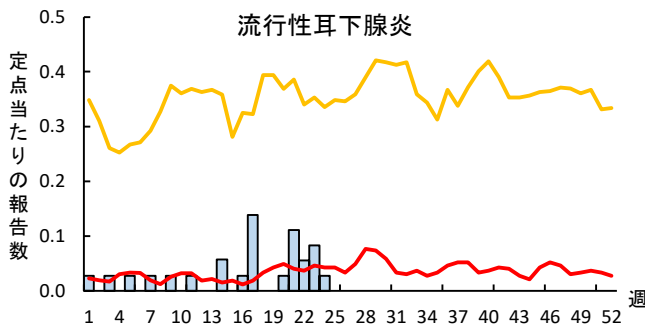
【参考】 定点把握疾患の発生動向（滋賀県、令和5年とCOVID-19 前後の平均値）

COVID-19 流行により 2020 年以降の感染症発生動向に変化が見られたため、今年の発生動向と流行前(2015～2019年)と流行後(2020～2022年)の発生動向を比較できるようにグラフを掲載します。



【参考】定点把握疾患の発生動向（滋賀県、令和5年とCOVID-19 前後の平均値）

令和5年 2015～2019年平均値 2020～2022年平均値



滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

令和5年第24週 (6/12~6/18) 【COVID-19 情報】

令和5(2023)年6月22日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント

- ・ 滋賀県の定点当たりの報告数は、増加傾向が見られます。全国的にも増加傾向が見られています。
- ・ 年齢別では、特に10歳代において、報告数と全年齢に占める割合の増加傾向が見られます。昨冬の流行初期には、10歳未満、10歳代から先行して増加が見られたこと、また昨夏は7月に感染者数の急増が見られたことから、夏の感染動向に注視が必要です。

2. COVID-19の定点当たり報告数(全国は前週)の値

定点当たりの報告数とは、定点医療機関からの1週間の報告数を定点医療機関数(COVID-19は60)で割った値のことで、1医療機関当たりの報告数のことです。(例:1週間の報告数200 ÷ 60 ≒ 3.33)

疾病名	滋賀県			保健所別							全国(前週)
	2週前	1週前	今週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	
新型コロナウイルス感染症	2.47	3.12	3.78	6.92	2.23	3.43	2.70	4.43	2.14	3.67	5.11

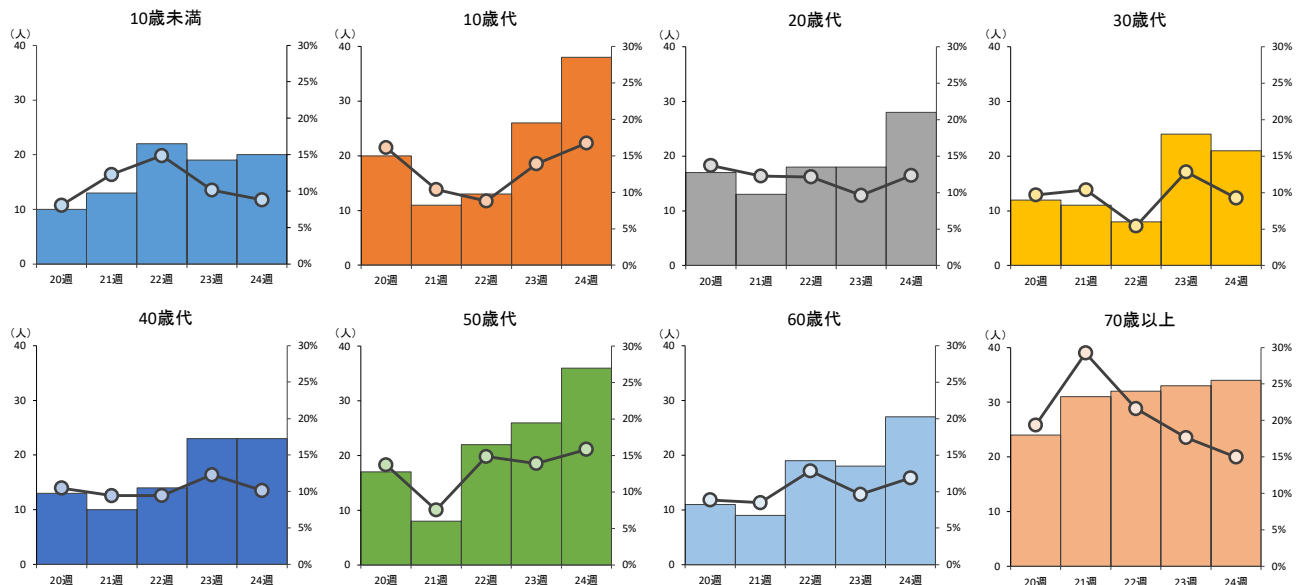
3. COVID-19の年齢階級別報告数(滋賀県、今週)

「-」:報告なし

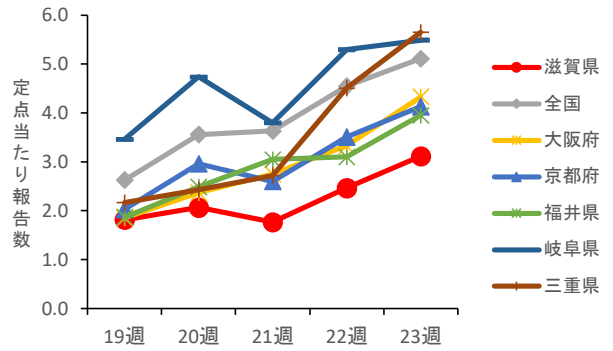
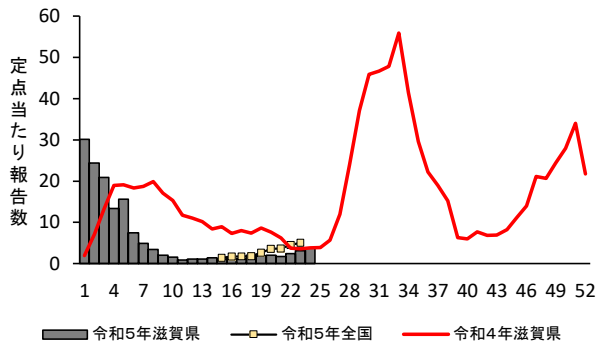
COVID-19定点	総数	~5ヶ月	~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳~
滋賀県(60医療機関)	227	3	1	2	1	1	1	1	2	3	3	2	17	21	28	21	23	36	27	15	19
大津市保健所(13医療機関)	90	1	-	1	-	-	-	-	1	1	1	-	6	9	13	14	8	12	11	4	8
草津保健所(13医療機関)	29	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	5	6	4	1	6	3	1	1
甲賀保健所(7医療機関)	24	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	1	1	1	2	2	4	2	2	6
東近江保健所(10医療機関)	27	1	-	-	-	1	-	-	-	1	1	2	4	2	1	-	3	3	4	2	2
彦根保健所(7医療機関)	31	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	1	1	6	1	4	7	5	2	1
長浜保健所(7医療機関)	15	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	3	2	2	3	1
高島保健所(3医療機関)	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	1	-	2	2	-	1	-

4. COVID-19の年齢階級別推移(滋賀県)

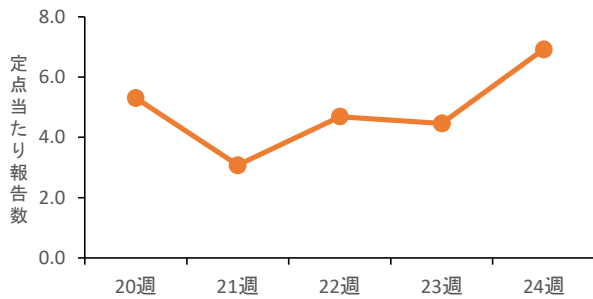
棒グラフ(左軸):報告数(人) 折れ線グラフ(右軸):全年齢に占める割合(%)



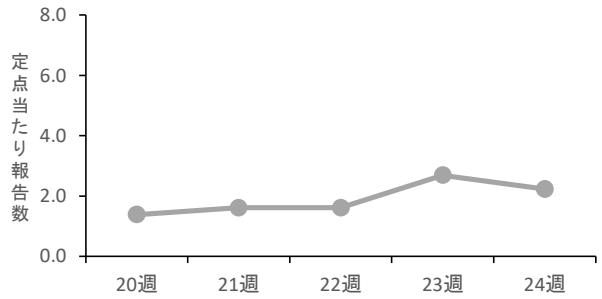
5. COVID-19の発生動向・保健所別推移等 (全国・他府県は前週まで掲載)



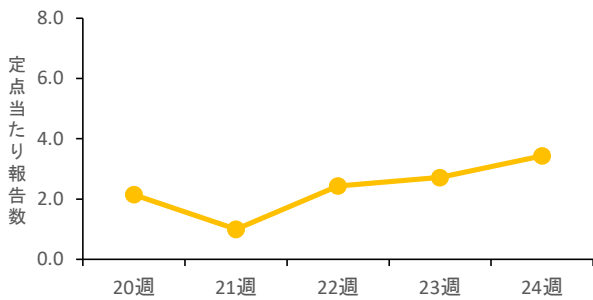
大津市



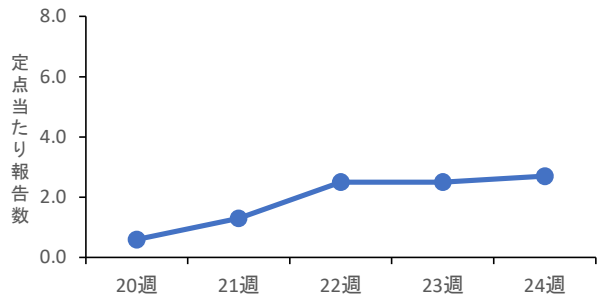
草津



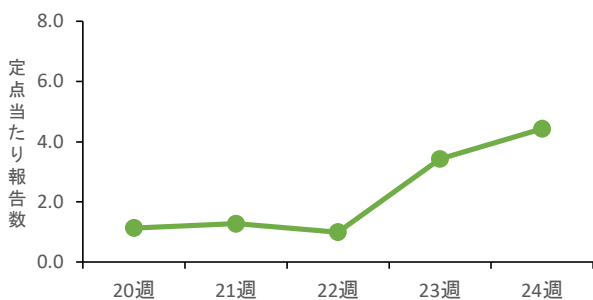
甲賀



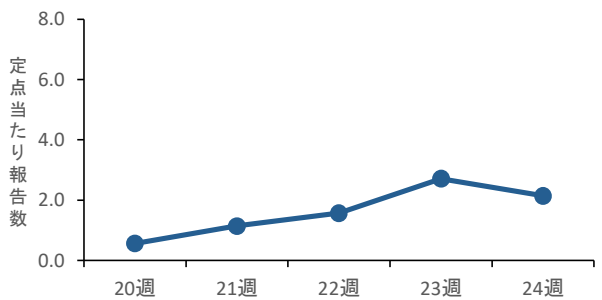
東近江



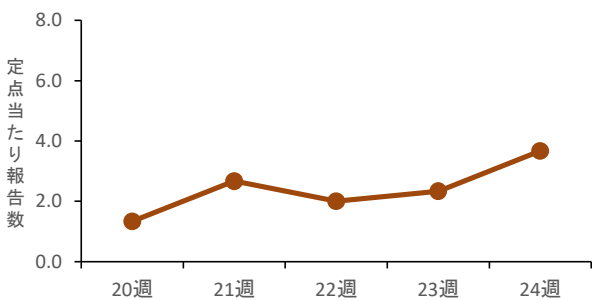
彦根



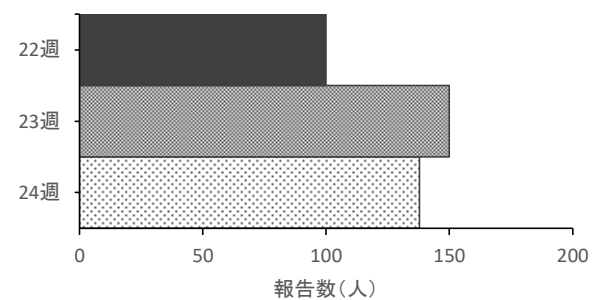
長浜



高島



学校欠席者情報収集システム(滋賀県)

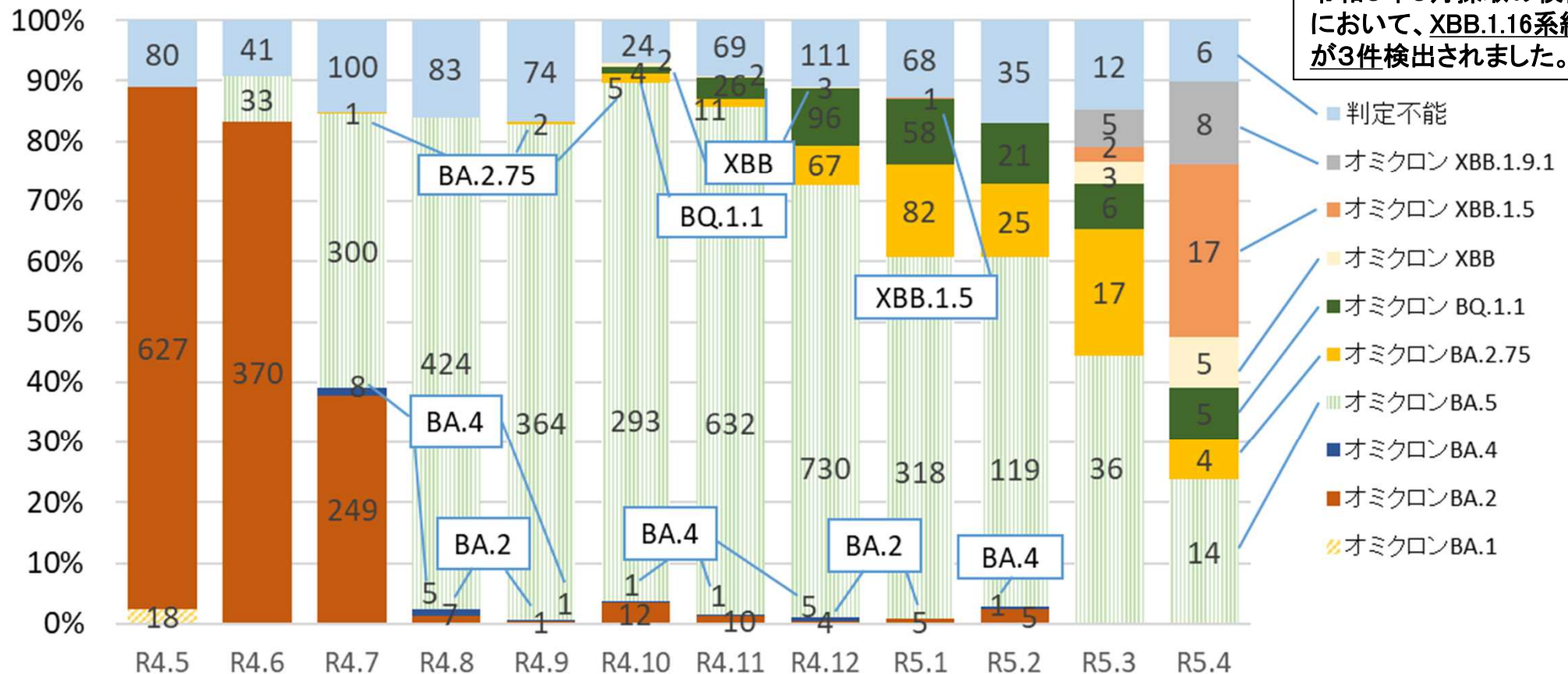


変異株にかかるゲノム解析状況について

健康危機管理課作成
6月18日時点

- 世界的には、XBB.1.5系統が30.0%、XBB.1.9.1系統が19.2%、XBB.1.16系統が18.0%を占めている。(WHO COVID-19 Weekly Epidemiological Update Edition 147 published 15 June 2023)
- 滋賀県ではXBB.1.5系統の検出割合が増加傾向にあるが、全国的にはXBB.1.16系統が増加傾向にある。
- 滋賀県では、令和5年4月時点ではXBB.1.5系統(28.8%) およびBA.5系統(23.7%)が感染の主流系統となっている。
- XBB.1.16系統は、XBB.1.5系統よりも広がりやすく、XBB.1.5系統と同様に免疫を逃れる性質は強いが、重症度はデルタ株やBA.1系統、BA.2系統と比べて低いことが示されている。(令和5年5月9日東京大学医科学研究所、WHO XBB.1.16 Initial Risk Assessment, 17 April 2023)

ゲノム解析結果(検体採取日別 月報)



【速報】
令和5年5月採取の検体において、XBB.1.16系統が3件検出されました。